

### 3 学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の進め方

#### (1) 連携の基本的な考え方

##### ア 連携が必要な理由

社会環境や食生活が大きく変化している中で、家庭においてじゅうぶんな食に関する指導を行うことが困難となりつつあります。また、郷土食や行事食などの食文化も失われつつあります。家庭や地域との連携が必要とされる理由には、こうした背景があります。

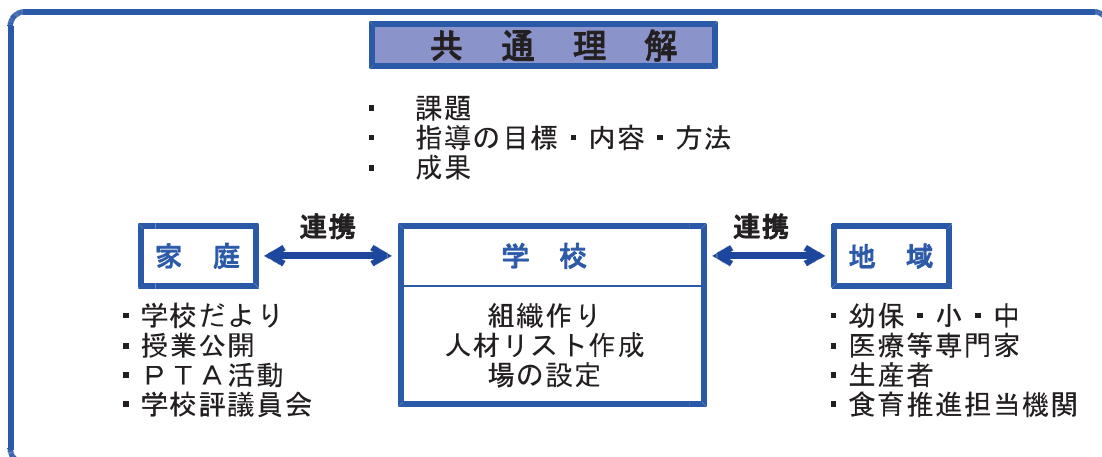
##### イ 期待できる効果

家庭との連携を密にすることによって、児童生徒が食に関する理解を深めたり、学校で学んだことを家庭の食事で実践したりして、児童生徒とその家庭の食生活を向上させていくことが期待できます。また、地域の特産物を学校給食に取り入れたり、食に関する知識や経験を有する人材や教材を有効に活用したりして食に関する指導を進めていくことで、児童生徒に地域の良さを理解させたり、愛着をもたせたりすることが期待できます。

##### ウ 連携の進め方のポイント

児童生徒の食生活の状況や基本的な生活習慣の課題、学校における食に関する指導の目標や内容、方法、指導の成果等について、学校、家庭、地域の間で、共通理解を図りながら連携を進めていくことが大切です。

そのためには、学校は積極的に食に関する情報の収集や発信、啓発等の働きかけを行っていくことが必要です。また、家庭や地域との連携を進めやすくしていくために、①連携推進のための校内組織作り、②校内での「地域人材リスト」などの作成、③事前の打ち合わせと指導の成果や課題等評価を共有する場の設定などを行うことが求められます。



## エ 連携の具体的な方法の例

### (ア) 家庭との連携の例

#### 家庭への働きかけ

- ・ 食生活の状況等の実態調査の実施
- ・ 学校だより、給食だより、学校のホームページの活用
- ・ 学習ワークシート等の活用  
(指導内容の伝達、家庭での実践の様子の把握)
- ・ 肥満、欠食、食物アレルギー等に関わる個別相談活動の実施

#### P T A 活動での取組の促進

- ・ P T A 広報紙等の活用 (食生活の状況と課題、指導方針の周知等)
- ・ 研修会や講習会の開催 (給食試食会、給食懇談会等)
- ・ 保護者と連携して作成する献立集の発行

#### 行事の活用

- ・ 学年懇談会や修学旅行などの保護者向け説明会の活用
- ・ 学校評議員会等の活用
- ・ 各教科等における食に関する指導の授業公開

### (イ) 地域との連携の例

#### 地域における幼保・小・中との連携

- ・ 連絡会議などの活用
- ・ 作成した給食だより、食育新聞などの配布
- ・ 食に関する研修会や授業公開への参加の呼びかけ

#### 医療関係者等の専門家との連携

- ・ ネットワークの構築
- ・ 連携体制の整備
- ・ 地域で行われる「健康フェスティバル」などの行事の活用

#### 生産者や関係機関との連携

- ・ 地域人材の活用
- ・ 生産の場の活用
- ・ 地場産物を素材とした学習

#### 地域で行われる食育の取組との連携

- ・ 地域で開催される食に関する各種教室や体験活動の活用
- ・ 食育推進のための会議等の活用

地域との連携については、学校独自で人材や機関を発掘するだけではなく、教育委員会が地域との連携を図るための組織作りをしたり、学校と関係機関の仲介をしたりして学校を支援していくことが求められます。